

ようつこそ湯の国登別へ

9/30
~10/2

海老名市市民訪問団来登



9月30日(日)から10月2日(火)まで、神奈川県海老名市の市民訪問団の一行が登別市を訪れました。

この訪問団は、昨年4月に調印した登別市・宮城県白石市・海老名市の三市による『トライアングル交流宣言』をきっかけに、海老名市が昨年に引き続き企画したもので、約80人の海老名市民が参加し、市民プールやクリンクルセンターなどの公共施設と市内のテーマパークを見学し、まちの様子や魅力を実感。カルルス温泉で開かれた歓迎交流会(登別市姉妹都市等都市間交流協会主催)では、『登別まちづくり促進期成会』の協力で、サンマヤイカ、トウキビなどが振る舞われ、参加者は北海道の味覚を満喫しました。最終日には、札内町の『交流の森』で記念植樹が行われ、参加者は今後も三市の交流が続くことを願いながら桜の木を植樹し、海老名市への帰路に就きました。

タスキでつなぐ
児童虐待防止の輪

9/22

登別市児童虐待防止タスキリレーマラソン

9月22日(土)、『第2回登別市児童虐待防止タスキリレーマラソン』(市主催)が行われ、富岸・青葉・幌別西各小学校の児童60人と『登別走ろう会』のメンバーが児童虐待防止への関心と理解を訴えながら、6区間(5・4キロ)に渡りタスキをつなぎました。

この活動は、子ども虐待防止を訴える『オレンジリボン運動』と同様の趣旨で行われ、4年間で市内全地区にタスキリレーを行う予定です。昨年は鶯別・若草・富岸小学校、今年は富岸・青葉・幌別西小学校へとタスキが繋がりました。



▲児童虐待防止を訴えながら走る児童と『登別走ろう会』の会員